

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・世界史B（普・理）	単位数	4	担当者	野口
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

世界史B（実教出版）  
最新世界史図説 タペストリー（帝国書院）

### 2、科目の目標

2 学年で学習した古代・中世の諸地域世界の発展の上にとって、16 世紀以降の「世界の一体化」によってもたらされた地球的規模の変化と、市民社会の成立をはじめとした近代史と現代史を学習し、国際社会に生きる現代人としての歴史的思考力を身につける。

### 3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立革命や産業革命とその後の民主政治への影響について理解する。</li> <li>・ウィーン体制下でのヨーロッパ諸国のナショナリズムや自由主義の動きと近代国家の形成の動きを理解する。</li> <li>・非ヨーロッパ圏での植民地化の過程とその抵抗について理解する。</li> <li>・帝国主義の特質と列強支配下でのアジア諸国の独立の動きを理解する。</li> <li>・二つの世界大戦の原因と過程、後世に与えた影響について理解する。</li> </ul>	70	既習範囲
	5月	欧米における近代国民国家の発展			
	6月	展			
	7月	アジア諸地域の動揺			既習範囲
	8月	帝国主義とアジアの民族運動			
9月	二つの世界大戦				
後期	10月	冷戦と第三世界の自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次大戦後の東西対立と第三世界の発言力の拡大を理解する。</li> <li>・冷戦の終結後も続く地域紛争や貧困や環境破壊など世界規模の問題について考える</li> <li>・問題集や入試問題を使い、入試に対応できる力を身につけさせる。</li> </ul>	70	既習範囲
	11月	現代の世界			
	12月	1年間のまとめ・復習・問題演習			既習範囲
	1月				
	2月				
3月					

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び出席時数を中心に、提出物や小テスト、授業態度などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度	世界の歴史に関心をもち意欲的に課題を追究する態度があるか。
	②思考・判断・表現	歴史的諸課題を多面的に考察し的確に判断することができるか。
	③資料活用の技能	歴史資料を主体的に活用し考察した結果を的確に表現できるか。
	④知識・理解	世界史の基本的事項を理解しその知識を正確に修得しているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

授業プリントやノートをしっかりと、授業内容をよく理解すること。また、なるべく授業時間内でその日の授業内容を理解できるように、主体的に授業に取り組むこと。定期考査の度に自分の理解度を確認し、やりっぱなしにせず必ずやり直しをして理解を深めること。

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地理歴史・日本史B(普・理)	単位数	4	担当者	高橋
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

詳説日本史（山川出版社） 新詳日本史（浜島書店）
-----------------------------

### 2、科目の目標

2学年までの古代、中世の学習の上に立ち、近世社会を経て近代国家の建設に至る経緯と、以後今日に至るまでのわが国の歩みを他国との関係も視野に入れつつ学習し、国際社会に生きる日本人としての歴史的思考力を身につける。
--

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲				
前期	4月	第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟 1. 幕府政治の展開      2. 経済の発展 3. 学芸の発展 4. 幕藩体制の動揺と幕政の改革	・幕府政治の行きづまりに対して幕府がとった対応を理解する。  ・欧米諸国の接近から開国によって日本が国際政治に組み込まれていく経過が理解する。 ・明治維新のねらいとその本質を理解する。  ・民主主義を求める運動が広範に展開した背景と、その運動により政党政治が発達したことを理解する。 ・国際社会の中で日本が大国の仲間入りをしていく経過と、やがて他国侵略に向かっていく経緯を理解する。	70	左記学習項目の範囲				
	5月	5. 欧米列強の接近と天保の改革							
	6月	第9章 近代への転換 1. 開国      2. 明治維新 3. 四民平等と富国強兵							
	7月	4. 初期の外交と国内政治 5. 文明開化							
	8月	第10章 近代国家の形成 1. 民権運動の展開							
	9月	2. 立憲政治への道      3. 条約改正 4. 初期議会と日清戦争 5. 政党の進出と日露戦争 6. 産業革命と社会の変化							
	9月	第11章 両大戦間の日本と市民文化 1. 第一次世界大戦 2. 大戦後の内外環境 3. 政党政治の展開							
	後期	10月				第12章 十五年戦争と日本 1. 満州事変      2. 日中戦争 3. アジア太平洋戦争 4. 戦時下の国民生活	・日本の侵略により大規模な戦争が引き起こされたことと、その戦争の内実を理解する。  ・戦後の改革により日本がどのような変貌を遂げたか、また独立回復後の経済成長により日本が経済大国となっていく経緯を理解する。	70	左記学習項目の範囲
		11月				第13章 現代の日本と新しい文化			
12月		1. 占領と民主改革							
1月		2. サンフランシスコ講和会議と安保体制							
2月		3. 高度経済成長下の日本							
2月		4. 経済大国日本と国民生活							
3月		5. 東西冷戦の終焉と日本 1年間のまとめ・復習・問題演習							

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び出席時数を中心に、授業態度などを総合して評価する。	①関心・意欲態度	日本の歴史に関心を持ち意欲的に課題を追究する態度があるか。
	②思考・判断・表現	歴史的諸課題を多面的に考察し的確に判断することができるか。
	③資料活用の技能	史料や図版を主体的に選択して活用し、考察できるか。
	④知識・理解	日本史の基本的事項を理解しその知識を正確に修得しているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

授業に欠席・遅刻をしないこと。授業をしっかりと聞き教材プリントを完成させ、授業内容を理解するようつとめること。語句の暗記のみにとらわれず、「歴史の流れ」を意識するよう心がけること。因果関係を理解すること。
--

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・地理B（普(文系)・理)	単位数	4	担当者	福島
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図帳 最新版（帝国書院）  
 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） WinningCOM. -PASS 地理の整理と演習 2023（とうほう）

### 2、科目の目標

2年までの基本的な事象を元に、各地域の地誌を総合的に学習する。現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	第三次産業 交通・通信	第三次産業の現状と進展を理解する。 交通機関の特徴・変化を理解する。	70	既習範囲
	5月	貿易・経済 世界の人口問題	現代世界の貿易の特徴を理解する。 人口問題の現状を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	6月	村落・都市	集落の特徴を理解する。都市問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	7・8月	生活文化、民族・宗教 東アジア	生活文化、民族・宗教の地域の特徴を理解する。 東アジアの特徴を理解し、世界経済に与えた影響を考察する。		
	9月	東南アジア 南アジア	東南アジア・南アジアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
後期	10月	西アジア・中央アジア ヨーロッパ	西アジア・中央アジア・ヨーロッパの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。	70	既習範囲
	11月	ロシア アングロアメリカ	ロシア・アングロアメリカの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	12月	ラテンアメリカ オセアニア	ラテンアメリカ・オセアニアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	1月 2月 3月	演習	現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を身に付ける。		

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点・レポート課題・出席時数を中心に、提出物・小テスト・授業態度などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度	地理に関心を持ち意欲的に課題を追究する態度があるか。
	②思考・判断・表現	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しているか。
	③資料活用の技能	地図・資料を主体的に活用し考察した結果を的確に表現できるか。
	④知識・理解	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考查を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・地理 B（普(理系)）	単位数	3	担当者	福島
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

新詳地理B（帝国書院） 新詳高等地図帳 最新版（帝国書院）  
 新詳地理資料 COMPLETE（帝国書院） WinningCOM. -PASS 地理の整理と演習 2023（とうほう）

### 2、科目の目標

2年までの基本的な事象を元に、各地域の地誌を総合的に学習する。現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	第三次産業 交通・通信	第三次産業の現状と進展を理解する。 交通機関の特徴・変化を理解する。	5 3	既習範囲
	5月	貿易・経済 世界の人口問題	現代世界の貿易の特徴を理解する。 人口問題の現状を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	6月	村落・都市	集落の特徴を理解する。都市問題の特徴を捉え、問題解決への取り組みを考察する。		
	7・8月	生活文化、民族・宗教 東アジア	生活文化、民族・宗教の地域的特徴を理解する。 東アジアの特徴を理解し、世界経済に与えた影響を考察する。		
	9月	東南アジア 南アジア	東南アジア・南アジアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
後期	10月	西アジア・中央アジア ヨーロッパ	西アジア・中央アジア・ヨーロッパの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。	5 2	既習範囲
	11月	ロシア アングロアメリカ	ロシア・アングロアメリカの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	12月	ラテンアメリカ オセアニア	ラテンアメリカ・オセアニアの特徴を理解し、世界に与えた影響を考察する。		
	1月 2月 3月	演習	現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を身に付ける。		

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点・レポート課題・出席時数を中心に、提出物・小テスト・授業態度などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度	地理に関心を持ち意欲的に課題を追究する態度があるか。
	②思考・判断・表現	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しているか。
	③資料活用の技能	地図・資料を主体的に活用し考察した結果を的確に表現できるか。
	④知識・理解	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解しているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

教科書や資料を参考に、授業時間内での理解を意識すること。ひとつの事象に囚われず、体系的に内容を理解すること。課題や考查を通して自分の理解度を確認し、復習を通して理解を深めること。

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	地歴・応用社会(森・イ)	単位数	2	担当者	野口
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

なし
----

### 2、科目の目標

地域の現状と課題を把握し、調査や探究活動を通すことでこれからの地域の担い手として必要な知識や技能、考え方・学び方を身に付ける。
---

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	世界のうちの故郷について  地域の現状と課題	35	
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
後期	9月	各時代ごとに複数の視聴覚教材を視聴し、それを参考にしながら、レポートにまとめることで、現代と過去の生活様式や文化、政治等を考察し、現代を生きる参考とする。	35	
	10月			
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
授業の取り組み状況、提出物（レポート）を総合的に評価する。	① 関心・意欲態度	出欠席、授業態度、提出物が十分であるか。
	② 思考・判断・表現	正しい表記で種々の事項を書き表せるか。
	③ 技能	レポートなどの提出物がわかりやすくまとめられているか。
	④ 知識・理解	基礎的な知識を身に付けることができたか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

基本的な知識を活用して社会の事象をどのようにとらえていくかを自ら考えながら学習を進めていく科目である。そのような事柄に興味関心を持つことがもっとも重要になってくる。
--

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	公民・倫理(普・理)	単位数	2	担当者	野口
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

高校倫理 新訂版（実教出版） 最新倫理資料集(第一学習社)
----------------------------------

### 2、科目の目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	青年期の課題と自己形成	35	既習範囲	
	5月	ギリシア思想 キリスト教			哲学の態度はどのように可能となるか考察する。キリスト教の思想は人間をどのように生きることを示しているか理解する。
	6月	イスラーム・仏教			イスラームの特徴を理解し、現代政治・社会へ与える影響を理解する。仏教の思想を理解し、人生における苦を考察する。
	7・8月	中国思想			中国思想の考え方・価値観を理解し、理想的な生き方や人間関係の在り方を考察する。
	9月	日本人としての自覚			日本の自然観・宗教観・倫理観を理解する。仏教が思想形成に与えた影響を理解する。
後期	10月	現代に生きる人間の倫理	35	既習範囲	
	11月	社会と個人			近代社会の問題の克服と人間中心主義の再検討について理解する。近代の人間観・世界観の変容を理解する。
	12月	現代の諸課題と倫理			現代の諸課題を通し、価値観や考え方を問い直す。
	1月 2月 3月	演習			古今東西の幅広い知的蓄積を通して、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
	②思考・判断・表現 他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
	③資料活用の技能 青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。
	④知識・理解 青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本の事項を資料集も活用しながら理解し、学習を通して過去の偉人の考え方や人間観を学習することで現代社会を自発的に生きる一助とする。 授業の進度がかなり早いので復習に重点を置くこと。
--

## R5年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	公民・政治経済(普・理)	単位数	2	担当者	二木
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

高校政治・経済 新訂版（実教出版） 最新図説政経（浜島書店）
-----------------------------------

### 2、科目の目標

広い視野から民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解する。実社会の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。 共通テストをはじめとした大学等受験に対応した力も身につける。
---

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲	
前期	4月	<b>【現代の経済】</b> 第2章 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ	・ 経済の基本的な考え方を理解し、現代日本経済の諸課題について考察し、現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。	35	左記既習範囲	
	5月					
	6月				第3章 現代経済と福祉の向上 1 戦後復興と経済成長 2 経済の停滞と再生	左記既習範囲
	7月				3 日本の中小企業と農業	
	8月				4 国民の暮らし	
	9月	5 環境保全と公害防止 6 労使関係と労働条件の改善 7 社会保障の役割				
	後期	10月			<b>【現代の経済】</b> 第4章 世界経済と日本 1 商品・資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 金融のグローバル化と世界金融危機 4 地域経済統合と新興国の台頭 5 経済協力と人間開発の課題 <b>【演習】</b> 1 共通テストに対応した演習	・ 現代の国際経済の成り立ち、諸課題及び日本の国際社会における役割について考察する。また現代社会の現状認識を図り、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
11月						
12月		左記既習範囲				
1月						
2月						
3月						

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度	現代の社会に関心をもち、意欲的に課題を追究し、民主的な社会の実現に向けて良識ある公民として参加、協力する態度があるか。
	②思考・判断・表現	諸課題を見出し、多面的多角的に考察し、社会の変化や多様な考え方を踏まえながら公正に判断することができるか。
	③資料活用の技能	資料を主体的に選択して活用し、考察した過程や結果を表現できるか。
	④知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事項を理解し、その知識を身に付けているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

基礎基本的事項を資料集も活用しながら理解し、学習を通して社会の抱える諸課題に対してこれからの社会を担う一員として問題解決に向けて必要なことを理論的に考察し、考える姿勢をもって取り組むこと。授業の進捗がかなり早いので復習に重点を置くこと。
--

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

3	学年	教科・科目	公民・政治経済(森・イ)	単位数	2	担当者	二木・高橋
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

### 1、教科書・副教材

最新政治・経済 新訂版（実教出版） テーマ別資料 政治・経済 2023（東京法令出版）
--

### 2、科目の目標

広い視野から民主主義の本質に関する理解を深め、現代における経済・国際関係などについて客観的に理解する。実社会の諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。
--

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲				
前 期	4月	<b>【現代の経済】</b> 第1章 経済社会の変容と経済の仕組み 1 資本主義経済のしくみ 2 経済主体と経済活動	35	左記既習範囲				
	5月	3 市場経済 4 景気変動と経済成長 5 財政のしくみとはたらき		35	左記既習範囲			
	6月	6 租税と国債 7 金融市場						
	7月	8 日本銀行と金融政策						
	8月	9 インフレ・デフレ						
	9月	10 日本経済の発展 11 労働関係 12 社会保障制度						
	後 期	10月				第2章 国民経済と国際経済 1 国際経済のしくみと現状	35	左記既習範囲
		11月				2 為替相場のしくみ		
		12月				3 国際協調と国際経済機関の役割		
		1月				4 国際経済の特質と地域的経済統合の動き		
2月		5 国際経済の諸問題と日本の役割						
3月		左記既習範囲						

### 4、評価の方法・観点

評価方法	評価の観点	
定期試験の得点及び授業プリントの取り組み、資料読解、授業への取り組み状況、出席状況などを総合して評価する。	①関心・意欲・態度	現代の社会に関心をもち、意欲的に課題を追究し、民主的な社会の実現に向けて良識ある公民として参加、協力する態度があるか。
	②思考・判断・表現	諸課題を見出し、多面的多角的に考察し、社会の変化や多様な考え方を踏まえながら公正に判断することができるか。
	③資料活用 の技能	資料を主体的に選択して活用し、考察した過程や結果を表現できるか。
	④知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事項を理解し、その知識を身に付けているか。

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

教室に配布される新聞や、ニュース番組などに目を通し、世の中で起きていることについて知り、これから生きていく社会を支える主権者としてどんな行動をとることが大切か、授業を通し、様々な意見に触れながら考えを深めていこう。
---